

## 四 季 の 訪 問

(106)

産業能率大学 学長  
工学博士

宮内 ミナミ 氏

(時28回)



略 歴  
昭和51年 愛知県立時習館高校卒業  
昭和55年 慶應義塾大学工学部電気工学科卒業  
昭和60年 同大学院工学研究科博士課程修了(工学博士)  
昭和61年 産業能率大学経営情報学部(現：情報マネジメント学部)専任講師  
平成11年 同教授  
平成15年 経営情報学部長  
平成24年 経営学部長および副学長  
平成26年 学長に就任

専門  
情報科学、画像処理・認識、メディア技術の産業応用

講演  
湘南ベルマルレ・スポーツ評議会 評議員

▼姉の後を歩いて時習館へ  
豊川市金屋本町で産婦人科医の父の元に生まれました。旧姓は山田といいます。二人姉妹で、姉が26回生です。豊川小学校、豊川東部中学校を経て、姉に続いて時習館に進みました。

姉はしっかり者。父の病院の仕事で多忙の母を助けて面倒をみてくれました。姉の時は、豊川東部中から時習館に進学する人は10クラス中10人くらいで、その内、女子は2人。先生から「おまえ大学に行くつもりか。女が時習館に行ったら嫁に行けないぞ」と言われたと憤慨していましたね。

私は学校群が始まった年に進学。すでに姉が時習館に行っていましたので、私は自然に時習館を受けました。ただ学校群なので、発表まで自分がどちらの学校に通うのか分かりません。姉がいましが豊川から南高校は遠いので、時習館に決まって良かったです。私の時は、1群に進学したのは15人くらい。女子は2人でした。

運動は好きで、中学では体操部でしたが、時習館では家が遠いので茶道部に入りました。今の職場である自由が丘の産業能率大学の地下に立派なお茶室があり、一昨年大学茶道部ができました。警察から茶道部にボランティアの依頼がある時など、基本的な話が分かるので役立っています。警察が地域の高齢者に振り込め詐欺予防の講習会をする時などに、お茶を点でて欲しいとよばれるんです。美味しいお茶をいただいたという楽しい記憶に併せて、講習会の内容が記憶に残るらしいんですね。

1年の担任は世界史の川口侃先生、2年は国語の榎本喬之先生、3年は英語の平尾

節子先生でした。時習館の恩師とは今も年賀状を交換しています。

父は産婦人科を50年開業した後、80才で病院を閉じました。今88才で、母と2人で暮らしていますので、豊川には時々帰っています。姉も私も大学で教える道を選び、後を継ぐことはありませんでした。

▼新しいことに挑戦する研究者の道へ

父は病院を継いで欲しいとは言いませんでした。実家は住込みの看護師さんや入院患者さんが同じ建物に住み、母は全員の食事を作り、看護師の相談のり、医療事務を引き受け、急患もありなどと、年中でんやわんや。旅行などは、なかなか難しかったです。

私は広い世界を見たいと思っただけで、大学に進学したら家を離れるだろうと思っただけで、父は、女の子でも「何になりたいか」と聞いてくれました。母も自分のやりたいように生きなさいと。時習館に合格してから入学までの間に課題図書があり、それでキュリー夫人の伝記や湯川秀樹先生の『旅人』を読みまして、新しいことに挑戦することにあこがれて「研究室に残って研究者になりたい」と父に言いました。

大学は慶應の工学部。国語や歴史も好きでしたが、研究者になるなら理系が良いのではないかと父のアドバイスもあり理系に進みました。そして3年になるときにコンピュータを専攻できる電気工学科を選んだわけです。

▼コンピュータ時代の先駆者

1970年代後半のことで、これからはコンピュータの時代と言われていて興味を持ちました。電磁波は目に見えませんが、コンピュータは、ハードも回路があり目に

見えるし、プログラムも理屈通りなんです。可視感があって納得できるのが性に合っていたのかも知れません。

入った研究室がデジタル回路、デジタル信号処理という分野で、その中にコンピュータでの音声処理、画像処理等、応用研究があるのですが、私は2、3才先輩の方達と画像処理の研究をしました。

当時研究室のコンピュータは性能が悪く、慶応病院の耳鼻咽喉科で補聴器の研究をしていた先輩の紹介で、医局にいいコンピュータがあるということで借りに行つて。修士2年の先輩と共同研究をしたのが卒論です。声帯にポリープができたリ癌になると変な声になりますよね。それを上から喉頭鏡で、高速度カメラで撮った写真と一緒に解析するとよくわかるという研究です。

また修士では、外国の論文を読んで面白く感じ、ビデオで動画画像を追跡する研究をしました。当時は静止画像でもデータが多くて大変だったんですけどね。今は車載カメラを使って衝突しそうになると車を停止する技術が実用化されていますが、あれの本当に初期段階の研究ですね。

その時の研究室の先生が、私が博士課程に残った頃、ご自身も画像研究を始められました。駐車場の混み具合、カーブの予測、渋滞の測定といった道路交通情報システムを研究されたのでかなり手伝いました。学部長になって多忙で辞任するまでは、電気学会の道路交通(現ITS)研究会の幹事もやっていました。ちょうどETCが導入された頃ですが、やはり不正に料金を突破する車があるので、カメラで撮っているんですね。他にも電波シールド等の対策もあり

ますが、私はカメラ関係を担当しました。

医学部では、顕微鏡の写真や喉頭鏡の写  
真。また今でいう免疫の検査なんです  
が、臨床病理の先生が持ち込まれた血液検査の  
写真を自動判別する等、いろんな分野で写  
真や映像があればお手伝いできるわけ  
です。

リモートセンシングで言うと、上空から  
撮った写真で林の植生が分かる。顕微鏡の  
写真では、人間が数える代わりにコンピュ  
ータが自動で数える。歩き方で人の癖は分か  
るか、といった面白い研究や、顔の認識、  
表情の認識など、カメラで写るものはコン  
ピュータに入れてみて、何らかの尺度で調  
べましよう、と。とても面白かったです。  
今ではほとんど実用化されていますね。

当時はミニコンと呼ばれ、今のパソコン  
と比べたら話にならない性能でした。ちょっ  
と画素を増やすとすぐに落ちてしまっ  
て。終わらないなあと思っている  
と止まったり。今は当時やりたかったことがリアル  
タイムで実用化製品レベルのコストと性  
能でできます。すごい進んでいますね。

▼仕事と家庭の両立

昭和60年に博士課程を修了。成蹊大学に  
1年勤務した後、産業能率大学の教員募集  
に応募して移籍しました。

博士課程修了時、同じ研究室の先輩と結  
婚。3年後に子供が生まれました。現在26  
歳、23歳、18歳の2男1女がいます。長男  
はもう社会人で独立、末の娘も今年大学に  
入り下宿したので、今は主人と次男が一緒  
に住んでいます。

結婚するか、子供を産むかは特に考えて  
いませんでしたが、長男が生まれた時はも  
う一人きょうだいを、とは思いましたね。

産休はありましたが、育休はまだない頃  
でした。両立は：何か頑張ればつじつま  
が合うかな、と頑張ってやってきました。

長男の保育園申込みの時、年末までに生  
まれていないと翌年度の申込みができない  
ことが分かりました。長男は4月生まれな  
いで入れない、と。それで保健婦さんに紹  
介されたのが保健所の近くに住むおばあちゃん。  
個人で子供を預かっていた人ですが、  
もうこれ以上は無理と娘さんを紹介してく  
れて、お願いしました。最初は保育園に入  
れるまでの1年間預かってもらうつもりが、  
お互いに慣れて、結局子供たちは3人とも  
そのおばあさん宅から幼稚園、小学校に通い  
ました。私たち一家も彼女の家の近くに引  
越して。交通の不便なところなんです  
が、今でもそこに住んでいます。

長男は小学校から「おばちゃん」宅に帰  
ると、弟と妹もそこにいる。私はそこに迎  
えに行くんですが、遅くなると、「ごはん食  
べさせておいたよ」って。子供が寝ていた  
ら、そのまま家に運んで。かなり助けられ  
ました。母も豊川から手伝いに来てくれま  
したが、病院の仕事が忙しい時は無理です  
し、主人も忙しいので、その方がいなか  
れば大変でした。娘が中学に入るまで20年間  
お世話になりました。

▼女性初の学長に就任

この4月に学長に就任しました。11年間  
学部長をやってきたので仕事内容は大きく  
変わりませんが、今年の入学式には初めて  
学長として話をしまして、幅広く勉強しな  
いと、と思っています。

産業能率大学の創立者はアメリカから近  
代的経営管理(マネジメント)を日本に紹

介した人で、日本初の経営コンサルタント。  
当時「マネジメント」を「能率」と訳した  
のです。創立時から企業の指導や研修をや  
ってきて、現在でも大学、大学院、短大の  
「学生教育」の他に、「社会人教育」があり、  
後者の方が規模が大きいです。一般の企  
業向けに教育やコンサルティング等をや  
っているため、コンサルタントが教授にな  
ったり、教授の中に企業経験者がいたり。経  
営学なのでそれが良いと思っています。

今の大学は、昔の様に研究者養成とい  
うよりも、しっかりした社会人を育てるとい  
うことがメインになっている傾向がありま  
すね。昔は高校時代に大人びてきたもので  
すが、今は大学の4年間で自分のことを考  
えて、進路選択し就活することで大人にな  
る感じがします。

▼来た話は断らない、それが次につながる  
経営情報学部の学部長になった頃、地元  
のサッカーチーム「湘南ベルマーレ」との  
ご縁ができました。たまたま営業に来られ、  
理事長と相談して、広告を出すより授業を  
一緒にやるとか学生の行事に来てもらう方  
がいいということで、湘南ベルマーレのス  
ポンサーになりました。Jリーグのチーム  
と大学の提携第  
一号です。

その後、バレ  
ーの川合俊  
一選手、日本  
でビーチバレー  
始めた人なん  
ですが、それが平  
塚のビーチバ  
ーだったとい  
う



ことで、ベルマーレの方から「産能もやら  
ないか」と紹介され、女子ビーチバレー部  
が発足しました。

そんなご縁でスポーツマネジメント研究  
所を設立し、こころ、6年一生涯命やっ  
てきました。経営情報学部を情報マネジメ  
ント学部にした時に、スポーツマネジメ  
ントとかコンテンツビジネスといった若  
者に人気のあるコースも設立しまし  
た。一から始めるので、異業種の方  
々からお力を借りて。面白かつ  
た。一時期、湘南ベルマーレの取締  
役もやっていたんですよ。今は評議員  
です。昨日はベルマーレの株主総会  
で選手全員とのパーティ  
があり、サッカーも見ることが  
できました。

スポーツマネジメント研究所の研究員に  
は、川合俊一さん、弟の川合庶さん、元浦  
和レッズのセンターバック西野努さんとい  
った方々がいます。そういうつもりは全  
然なかったんですが、来た話は断らな  
いということが次につながると思  
っています。素人  
でということが強みですよ。

3人の子育てをしながら仕事をしてき  
ましたが、大変だったのは一時でした。何  
とかなる。あまり考えすぎないことが  
大切かも知れませんね。  
これからは、バレエやオペラ、ミ  
ュージカル、コンサートなどを娘と一  
緒に見に行けるといいなと思  
います。余裕ができたら、誘  
ってみようかな。

\* \* \*

女性ということに気負いもハンディも感  
じさせず、颯爽と男社会で力を発揮して  
こられた宮内さん。これからの日本に必要  
な女性像を見せていただいた思いでした。

(榎並 潤子)